

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 4 月 22 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 00

場 所 合同庁舎 4 号館 1214 会議室

出席者 相澤議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 第 90 回総合科学技術会議資料の最終確認について

(会議開催に関する事務的な打ち合わせのため非公開)

議題 2 . 平成 23 年度科学技術振興調整費の概算要求方針策定に向けた基本的考え方について

(事務局の素案を初めて議員に示すもので、内容が今後大きく変更されうるものであるため、今回は非公開)

議題 3 . 日本学術会議の在り方について(私案)

< 金澤議員説明 >

(奥村議員) 科学の強化のためには、将来に向けて何をやるのかという時間軸の概念が重要。そういう意味では、学術会議が次世代の研究者の育成につながる教育についても発信されることを期待。

(青木議員) 学術会議の役割は、政府の求めに応じ、何をやるとどうなるかという理論立った分析を行うことと理解。そのためには若手を含めた多様な考え方を反映させることが必要であり、「政府との連携強化」と「若手の育成」が相互作用でうまくいく可能性がある。

(相澤議員) 学術会議として、どのようにシンクタンク機能を発揮しようと考えているのか。

(金澤議員) 学術会議に対して球が投げられたときに、会員又は連携会員から、最も適切な人たちを役員が選んでいつまでに考えるということを言えば、十分やってくれると考えている。それなりの知恵を発揮したいという意味で、シンクタンク機能と言っている。

議題 4 . 総合科学技術会議議員と日本学術会議会長、副会長との意見交換の開催について

< 加藤参事官説明 >

(相澤議員) これまでも意見交換は行っていたが、これから充実したものにしていくなためにも、議題を絞り込んで意見交換した方が効果的ではないか。

(金澤議員) 学術会議の副会長も意見交換にはポジティブであり、今まであまり時間がなくて議

論できなかったことをいくつか取り上げて議論してはどうか。例えば、総合科学技術会議における人文社会科学の在り方について、「大事である」だけではない突っ込んだ議論をできないか。

(相澤議員) 日程については5月13日にすることとし、意見交換の議題は各議員から御意見をいただきたい。

(以 上)